

2020年度 事業報告書

1) 事業の成果

《パレット》

1. **パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります**
 - ・ 子育てを応援する法人として、子育て家庭に寄り添い、必要とされる事業の在り方を検討しつつ、安心・安全な運営を心がけました。
 - ・ 新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、行政からの指針に沿って冷静かつ適切に対応し、全事業所が感染者を出さずに運営を継続することができました。
 - ・ 「青葉区地域子育て支援拠点ラフール」3期を申請し受託しました。
 - ・ 区役所に相談に訪れる養育者が安心し、落ち着いて話ができるよう、一緒に訪れるお子さんの「区役所見守り事業」を始め、2年目も受託しました。
 - ・ 安心して働ける環境づくりのため、雇用調整助成金などを活用して休業手当や感染防止手当を支給しました。
2. **これまでになく社会情勢の変化に対応しながら、子育て家庭の様々な状況に寄り添って適切な支援ができるよう、情報手段の工夫など新たな手法も取り入れ、関係機関とも連携して取り組んでいきます。**
 - ・ オンラインや SNS を活用し、情報手段を工夫して新たな手法を取り入れ、妊娠期からの子育て家庭とのつながりを絶やさないようにしています。
 - ・ 「なないろ育児相談」を開始しました。歩いて行ける地域の居場所という役割も担い、少人数で集まり、SOSを出すことのできる場所が一つ増えました。
 - ・ パレットの各事業所で、利用者や地域の方から食品を回収するフードドライブを実施しました。まだ食べられるにも関わらず廃棄している食品を集め、食べ物を必要としている世帯や施設へ届ける支えあい活動を行うことができました。食品ロスの軽減にもつながっています。
 - ・ 24時間 365日介護が続く医療ケアが必要な子どもの親、兄弟姉妹、家族のレスパイトや、子どもの自立を助ける施設「もみじの家」の運営を支援するため、募金活動をしました。
 - ・ 今までなかなか出かけられなかった研修や講座をオンラインで受けることができ、人材育成に役立てることができました。
3. **安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりに努め、子育て家庭の視点からの防災、減災にも取り組みます。**
 - ・ 区民会議主催の防災講座をオンラインで受講しました。
 - ・ 定期的に当事者も含めた避難訓練を行い、通信でも呼びかけ、意識を持つよう働きかけました。
 - ・ 子育てタクシーを利用する子どもたちに配布してもらった「子育て応援塗り絵」を作成し、周知に役立てました。パレットの各事業所でも活用して広報しています。

2) 事業内容

特定非営利活動にかかる事業

① 保育室での保育に関する事業

《まーぶる》

1. 子どもたち一人ひとりの気持ちをこまやかに読み取り、応答的に対応していきます。
個性や、主体性・自主性を大切にし見守る姿勢を意識します。
 - ・ 初めて保護者から離れる子どもの気持ちに共感し、安心して過ごせるような関わりを心掛けました。
 - ・ 子ども一人ひとりの活動を丁寧に見守り、一律にさせるのではなく、受容的・応答的な関わりを心掛けました。
 - ・ 配慮が必要なお子さんや障がいのあるお子さんの預かりの時は、保護者から丁寧な聞き取りをもとに保育者間で情報を共有し、その子にあった関わりが継続して持てるように努めました。
 - ・ 自分でやりたい気持ちを大切に、個々に合わせた言葉がけや関わりをしました。
 - ・ 集中して遊び込んでいるときは介入せずに見守り、子ども同士の関わりがもてるような仲立ちをしました。
2. 子どもたちは、安全で安心できる場所で様々な人とかかわりを持ち信頼関係を築くことができるよう環境を整えます。
 - ・ 自粛期間中から新型コロナウイルス感染対策に努めながら、子どもたちが日々安心して過ごせる環境づくりを行いました。また、保育者自身も子どもたちにとっての環境の一部であることを意識し、声の出し方や表情をより豊かにすることを心掛けました。
 - ・ 必要に応じてパーテーションを取り入れ、より安全に過ごせるよう配慮しました。
 - ・ 保護者の皆様にもご協力いただき、登室時の検温、アルコール消毒をお願いしました。
3. 保護者とともに、子どもたちの成長を喜び、一緒に考えながら歩みます。また、必要な情報提供が迅速に出来るよう関係機関との連携に努めます。
 - ・ 保護者会の開催ができなかったため、個人面談を行い、ご家庭との連携を密にすることに努めました。日々のお返し時間に加え子どもの様子を伝えることができました。
 - ・ 保護者の参加ができなかった季節の行事や保育の様子を、通信や保育室に写真を貼りだし見ていただくことができるようにしました。
 - ・ 保護者の話を丁寧に聞きとり、自分で解決していくための方法を導きだせるよう、共に考えることを大切にしました。また、必要な情報が提供できるように情報の収集に努めました。
4. それぞれの保育者が得意分野を生かし、お互いに信頼した関係の下で保育に取り組み、スキルアップしていきます。
 - ・ 登園自粛中には、パネルシアターやペープサートなど、子どもとの関わりについての研修や環境の見直しを行いました。

- ・ 毎月のミーティングでも積極的に意見交換をし、ひとり一人のスキルアップに努めました。
 - ・ 感染対策を考慮して、オンラインミーティングの開催ができる環境を整えました。
 - ・ 毎月子どもを含む防災訓練の他、心肺蘇生訓練用の人形を使用して、非常時に誰もが動けるように訓練しました。今年度は窒息事故に備えた訓練もミーティングで行いました。
 - ・ 地域ネットワークなどの研修に参加し、保育のスキルアップに努めました。
5. **地域の一員として繋がりを大切にし、様々な活動に積極的に参加していきます。**
- ・ 地域での行事や防災訓練は中止になってしまったが、自治会の回覧板などで地域の情報の収集に努めました。
 - ・ 戸外活動時に出会う近隣の方々と、気持ちよい挨拶を保育者が手本となり行うことで、地域の方々と子どもたちのつながりが感じられるようになりました。
6. **一時預かりを通じて、近隣の様々な子育て家庭に寄り添い、必要な情報提供が迅速に行えるよう関係機関との連携に努めます。**
- ・ 関係機関や子育てサポートシステムと連携し、緊急の預かりに対応しました。
 - ・ 一時預かりの登録を各事業所で開催し、理由を問わず預かってくれる場所があることを知ってもらうことができました。

《家庭的保育室なないろ》

1. **子ども一人ひとりの現状をありのまま受け止め、発達過程にあった関わりの中で心身の成長をしっかりと支える保育をしていきます。**
- ・ 子ども一人ひとりに応答的な関わりをすることを心掛け、安心した環境の中で、基本的な生活習慣を身につけることが出来るように努めました。
 - ・ 療育センターの職員の巡回相談を受けることで、個々の子どもへの接し方等アドバイスをもらうことができました。
 - ・ 配慮の必要な子どもの対応を同年齢の子どもが良く見ており、その子どもの様子を見て真似する行動も見られ、子ども同士の関係性を生かす保育の難しさを感じました。
2. **家庭との連携を深めながら信頼関係を築き、保育者と保護者がお互いによきパートナーとして、共に子どもの成長を支え合っています。**
- ・ 連絡帳の記入や送迎時に、子どもの様子や保護者からの話にもよく耳を傾けるよう努めました。保護者との信頼関係を築き、子どもや親自身の悩みを話しやすい関係づくりを心掛けました。
 - ・ 毎月の通信を通して、なないろの思い、子どもの生活の様子、親子での遊びの提案などを伝えました。
 - ・ 緊急事態宣言の発出により登園自粛をお願いした期間“なないろ通信”を3回発行し、親子で楽しむ手作りキットを同封し、少しでも保護者に子どもとホッとできる時間を作ってもらうようにしました。
 - ・ コロナ禍、例年5月に行っていた保護者会を中止し、玄関先での受け入れ、お返しにしました。保育中の子どもの様子を写真などでお伝えしたものの不十分さを感じ、11月に保育中の子どもたちの様子を動画に撮り、個人面談で保護者に観ていただきました。
 - ・ 子どもの状態、状況を考えて保護者に話をしましたが、伝えることの難しさを感じました。

3. 併設の一時預かり保育室とともに活動する機会を通して、子どもたちが交流の幅を広げ、新しい体験ができるように見守ります。
 - ・ 一時預かり保育室とは、毎日のお散歩などで様々なお友だちと接することにより、いろいろな経験ができ、成長につなげることができました。
 - ・ 一時預かり保育室のスタッフと、日々の預かり人数や子どもの様子、当日一緒に行う活動についての事前打ち合わせを行い、情報共有をすることで、安全に活動することができました。常に同じ活動をするのではなく、時には違う活動を取り入れ、安全で安心できる環境で過ごせるように心掛けました。
4. 毎日の振り返りやミーティングを通して、なないろの保育の在り方を共有し、スタッフ間の連携を深め、保育内容の充実と保育技術の向上に努めます。
 - ・ 毎日の振り返りとミーティングで子どもたちの様子や配慮すべきことを共有し、課題についての意見交換を重ねることで、共通の認識を持ち、連携して保育を行うことができました。
 - ・ 新型コロナウイルスの感染症対策を確認しあう機会を年間通して意識し、子どもたちが安全に過ごせるように努めました。
 - ・ 虐待や保育所保育指針の研修を行うことにより、現在の子育て支援で大切にすることや施設で気づくべきこと、子ども主体の保育とは何か、子どもにとっての最善の環境について保育者間で考える機会を持つことができました。
5. 地域との交流を大切にし、連携園や関係機関とのよりよい関係作りに努めます。
 - ・ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、例年行われている連携園との交流、連携園の施設の利用などが中止になったことは残念でした。
 - ・ 地域の保育施設の方々と日々挨拶を交わすことにより、公園での活動をスムーズに行うことができました。
 - ・ 203号室での子育て相談の日を設けることにより、地域での新たな居場所として更なるつながりを期待しています。
 - ・ 一人でも多くの一時的な預かり場所を確保するために、余裕活用型一時保育の申請をしました。
6. 食育活動において、野菜の栽培や調理の体験、実際の食材に触れる経験を通して、子どもたちが口にする食材への関心を高め、食べる意欲へとつなげます。
 - ・ 例年とは違うゴーヤ、小松菜を栽培することにより、新たな経験が出来ました。
 - ・ そら豆の皮むきは感触を楽しみながら皮むきを行うことができましたが、食べることに思うようにつながりませんでした。そこで、お豆の絵本に親しむ、お豆のわらべうたを楽しむなど、様々な遊びにつなげました。

《一時預かり保育室なないろ》

1. パレットの理念のもと、0～2歳児、定員7名の少人数の良さを生かした子どもが安心して過ごせる一時預かり保育室を目指します。
 - ・ 子ども一人ひとりが安全に楽しく過ごせるよう、受け入れ時には保護者からの聞き取りを丁寧に行い、その日の子どもの様子や体調に応じて細やかに対応しました。

- ・ 個人記録をつけることにより、久しぶりの利用時の参考になり、スタッフ皆が共通認識を持つことができるなど、保育に生かすことができました。
 - ・ アレルギーのある子どもについては、事前に保護者からの聞き取りを行い、預かり時には色の違う名前テープを使用し、掲示したホワイトボードにアレルギーの内容を書き留め、スタッフ間で口頭でも確認し合いました。食事時にはテーブルを離す、食直後の清掃など、細かく配慮しました。
 - ・ 新型コロナ感染防止対策として、換気、子ども同士が密にならない席の配置に気を配り、おもちゃや室内の消毒を丁寧に行いました。
 - ・ マスクを着用しての保育になり、子ども達に表情が伝わりにくいという課題がありましたが、言葉がけや動作を工夫することで、安心して過ごしてもらうよう日々努めました。
2. **保護者の気持ちや悩みに寄り添い、育児をサポートします。また、関係機関と連携し、一時預かりを必要とする家庭が利用できるように努めます。**
- ・ 登録での来所時には、育児の状況を話してもらうようにしています。コロナ禍での妊娠中、出産前後や入院中の不安な気持ち、出かけられない孤立した育児、逆に在宅勤務で家にいられない育児など多くの声を聞くことができ、今後に役立てて行きたいと思えます。
 - ・ コロナ禍で子どもを預けての外出がままならなくなった家庭の、特に0歳児の預かりニーズに応じて育児支援に努めました。
 - ・ 母親が急病・入院となった家庭、区からの依頼のあった外国の家庭、親の不安が強い家庭のお子さんなどを継続して預かりました。保育室として信頼を得ることができ、小規模保育室の利用につながったケースもあります。
3. **併設型保育室の良さを生かして子ども同士が交流できるように、スタッフ相互で連携します。また、それぞれの視点から、振り返りやミーティングを充実させることで、スキルアップを図ります。**
- ・ 小規模保育室とともに、換気・社会的距離などの感染対策に気を配りながら、ミーティングで内部研修を行い、意識を高めることができました。
 - ・ 日々、その日の保育についての振り返りを行い、子どもの月齢により戸外・室内と活動が分かれても、どの子どもについても情報共有することができ、さらに保育内容を良くしていくための改善点について意見交換することができました。
 - ・ 小規模保育室とともに、その日の活動内容について事前に打ち合わせし、協力することにより、子どもの月齢・様子に合わせて、一時預かりのスタッフだけでは行えない活動も可能となりました。
 - ・ 一時預かりの子ども達だけではなく、小規模保育室の子ども達と過ごす機会があることで、子ども同士の関わり方や成長する姿を見ることができ、併設型の利点を活かす保育ができました。
4. **事業の安定継続を目指し、乳幼児一時預かり事業の在り方を横浜市と共に考えていきます。**
- ・ 施設長会への積極的な参加を通して事業の必要性を行政担当者に伝え、予算の提案書を横浜市に提出しました。

- ・ ここのメンバーに働きかけ、コロナ禍における一時預かりの情報共有を図りました。

《いるかくらぶ》

放課後、就労等により家庭に保護者がいない小学生が、安心して安全に過ごす事ができる居場所を提供します。

1. **子どもたちの安心安全を第一に考え、子どもたちが自ら考え安全を確保する力を育み、子どもたちが主体的に放課後の時間を豊かに創造できるよう支援します。**
 - ・ 子どもたちと共に新しい生活様式について考え、主体的に生活を作ることができました。
 - ・ 子どもたちの当番活動では、ドアノブ拭きや、空気清浄機フィルターの手入れなども取り入れ、なぜこの作業が効果的なのかを考えながら、活動できました。
 - ・ 公園での外遊びも、人が多い時間帯を避けるなど工夫しました。これまでと違うことがあるたびに、子どもたちとその理由について考えました。
 - ・ 安全な過ごし方について、小さなケガなどがあるたびに子どもたちが主体的に話し合う時間を作り、情報共有に努めました。大きなケガもなく、安全に過ごすことができました。
2. **異年齢の集団の良さを生かして、遊びや活動を通して、自他共に尊重し、お互いに育ち合える環境を作ります。**
 - ・ 当番活動の単位である班を異年齢で構成することで、毎日の活動を通して互いに学び合える環境ができました。
 - ・ けん玉やコマ回し、カップスタッキングでは、上手な子に年下の子たちが憧れ、やったことのないことに挑戦する気持ちと、教え合う雰囲気が自然に生じていました。
 - ・ 外遊びでは、大縄やポコペンなど、集団遊びを通して自他共に尊重する雰囲気ができました。
 - ・ 未経験の遊びに臆病になる子には、高学年が自然にやさしく声をかけていました。
 - ・ お楽しみ会では、手話歌や無言劇など出し物の感染症対策を工夫してみんなで創り上げる中で、子ども同士の心の成長がたくさん見られました。
3. **子どもも保護者も、一人一人がほっとできる居場所になるよう目配り、心配りに努めます。**
 - ・ 春から臨時休校があり、社会的に急な予定変更が重なりましたが、いるかくらぶ内はいつも通りの穏やかな雰囲気になるよう一層努力しました。
 - ・ 兜作りや七夕飾り作りなど、季節の行事を大切にすることを続けました。節目を大切にすることで、子どもも大人も不安な日常の中で、気持ちを整えることができました。
 - ・ 臨時休校時の過ごし方が各家庭によって様々だったので、6月の分散登校開始時は、情緒が不安定になっている子や口数が少なくなっている子などもいましたが、一人ひとりに寄り添い、穏やかな集団の雰囲気作りに努めることで、子どもたちにリラックスした笑顔が増えました。
 - ・ 子ども新聞購読は、子ども同士が話をするきっかけを作りになるとともに、社会の様子について子どもたちに分かりやすく話をすることに活用できました。

4. 学校と保護者とくらぶとパレットで子どもたちを見守り、地域が協力して子どもたちを育てようお互いに協力します。
 - ・ 学校とは、訪問やお便りなどで緊急時の対応について確認したり、下校時の歩き方や学校及びいるかくらぶの様子を共有したりするなどの連携をとりました。特に、学校開始が6月からだったり、地域の集団登校が行われなかったりして登下校に懸念があったので、分散登校中は毎日学校と連絡を取りあい、安全に通学路を歩けるよう支援しました。
 - ・ 保護者とは、お迎え時に丁寧に話をすることに努めました。また、情報発信のため、ホームページやSNSの活用を始めました。
 - ・ お便りでは、個々の児童の良いところや、集団としての良さを共有するとともに、安全についての啓発の発信に努めました。4月5月の緊急事態宣言発令下は欠席家庭も多かったので、メールでお便りを送るなど工夫しました。
5. 保護者会の協力と理解を得ながら、パレットと連携し、イベント等を通して、地域の理解を深めます。
 - ・ 2020年度は、特に行事開催に感染症対策の面で工夫が必要な年でした。例年冬に開催しているおもちつき大会は中止となりましたが、公園愛護会と保護者会で連携して行う秋の公園清掃は行うことができました。感染症対策に配慮して秋の公園清掃を行う中で、参加者同士交流することができました。
 - ・ 公園愛護会の一員として、随時子どもたちと公園のゴミ拾いや花壇の手入れをすることで地域に貢献しました。
6. 保護者が就労している間、安心して預けられる場所を目指し、社会の変化に柔軟に対応した運営を検討し取り組みます。
 - ・ 臨時休校や緊急事態宣言によって保護者も子どもも不安を抱えていましたが、いるかくらぶはいつもの学校休期間と同様に午前8時からの開室を続け、子どもたちが子どもらしく遊び、学びあうことができる生活が守られるように努めました。
 - ・ いるかくらぶの中は、これまで通りけん玉や将棋や折り紙など、自分のペースで遊ぶことができる伝承遊びを大切にしました。
 - ・ 世の中の感染状況は先行きが不安定でしたが、情報を収集し、保護者や子どもに正しい情報を丁寧に発信することに努めました。情報発信では新たにホームページを開設し、オンライン会議ツールも導入しました。

② 子育て中の親子の交流事業

《ぴよぴよ》

1. 近隣や地域の親子、家族、子育て支援者に「いつでも安心して利用できる広場、遊びに行ける広場」があることを知らせます。広場のタイムリーな情報や地域の情報を通信やホームページで発信していきます。
 - ・ 緊急事態宣言解除後6月1日よりコロナ感染症対策を十分行い、3密を避ける広場の在り方を検討し、開設しました。広場利用組数を3組にし（7月1日より5組ずつに変更）、利用時間を午前10:00～12:15、午後12:45～15:00と設定し、合間の時

間におもちゃや広場の消毒作業時間にすることで安心して利用してもらうことができました。

- ・ コロナ禍で、広場利用を躊躇されている方や地域の方のために、親子でおうち時間を少しでも楽しんでもらいたいとの思いと、つどいの広場を知ってもらうきっかけになるよう、毎月変わる折り紙キットを外看板に置きました。メッセージカードに付けたQRコードを読み取り、広場に関心を持って来てくれる見学者がいてくれたことが、スタッフの励みになりました。
 - ・ 広場で親子が遊ぶ様子やイベントの様子をブログに載せることが前年度よりも多くできました。
 - ・ コロナ禍で通信の配架ができない時期もありましたが、自治会回覧板 100 部、外部約 650 部配架することができました。
2. チームワークを大切にし、自主研修や外部研修で得た情報を共有することで、スタッフのスキルアップに繋がると共に、親子ボランティアの育成に力をそそぎ、いつでも安心して遊びに行ける居心地の良い広場になるよう努めます。
- ・ コロナ感染者を出さないための広場対策をスタッフ間で共有検討し、実行してきました。
 - ・ 外部講師の講座を設けることが難しいこともあったため、短い時間でも親子に楽しんでもらうための「ふれあい遊び」「英語で手あそび」をスタッフが提供することで、親子が触れ合う楽しみな時間をもてるようにしました。
 - ・ 外部研修に参加したスタッフからの情報をスタッフ会議で共有することができました。
3. 利用者の声を活かし、子育て家族が交流しやすい広場づくりを目指します。
- ・ コロナ禍でも「にちよう広場」を開催し、利用してもらうことができました。パパの参加も多く、広場の利用を通して子育て家族の交流に繋がることができました。
 - ・ 10月5日～9日まで3周年記念Weekを開催し、くるみボタンを使ったエコバック留めを利用者に作ってもらい好評でした。
 - ・ 新しくお誕生日用フォトスポットを作りました。
 - ・ コロナ感染症対策の一環として、新しい絵本やおもちゃ、棚を購入し、居心地のよい広場づくりができました。
 - ・ 地域のイベントや幼稚園の行事が延期や中止になり、親子が少しでも楽しめるよう、広場内で遊べる企画を考えました。夏は「ミニミニえんにちごっこ遊び」を、また例年は一日だけ開催する冬・春のお楽しみ会でしたが、密を避けるため一週間、午前と午後で開催し親子に好評でした。
 - ・ 一時預かり保育室まーぶるの登録会を広場で行いました。預け先に困っていた利用者や、預けることに躊躇していた利用者も安心して登録することができました。
4. 地域で子育て支援をしている方との交流や情報共有、地域活動への積極的な参加など繋がりを大切にしていきます。
- ・ 地域の保育園、幼稚園の先生が来訪。親子と触れ合う機会をもつことができました。地域での親と子のつどいの広場の在り方などお伝えすることもできました。
 - ・ 2月にエリア別子育てネットワーク会議に参加し、荏田地域の支援者と情報交換、交流の機会があり、つながりをもつことができました。

- ・ 担当地域の保健師と連携しながら、地域育児教室で広報させてもらうことができました。赤ちゃんを抱え行く場所がなく子育てをしていたママ達の利用があり、先輩ママ達やベビータイムを利用することで母親同士の交流の場になりました。
 - ・ オンラインを使って、青葉区地域子育て支援拠点と青葉区内のつどいの広場事業者による青葉ひろば会議を行い、情報共有し研修を行いました。
5. **パレットの各事業所や地域、行政と連携を深め、子育て家族を応援します。**
- ・ 今年度はコロナ感染症対策をとるために、他の事業所との交流や行事の連携をとることが難しい年でした。コロナ禍でも子育ては現在進行形です。今後も各事業所とどのように連携し子育て家族の支えになれるか考えていきたいと思います。
 - ・ 子育てに不安を抱えている親子の相談やアドバイスを地域の担当保健師や青葉区地域子育て支援拠点と連携しながら、親子のようすを見守るよう努めました。

《ぶーぶーしえすた》

1. **すべての育児中の親子が他の親子とコミュニケーション作りができ、地域とのつながりも持ち、親子で安心して過ごせる居場所を目指します。**
- ・ 感染症予防対策をしっかりとし、イベントを行い（月に10日程度）、広場に来やすい環境を作りました。（Babyタイム、お話し会、手作りの日、英語で遊ぼう、リズムで遊ぼう等）
 - ・ 週5日常設で広場を開催し、誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように家具やおもちゃ、本などの環境を整えました。
 - ・ リピーター利用者が広場の雰囲気づくりに参画し、初めて来た親子ともおしゃべりを通してアドバイスしあう、助け合う場になりました。
 - ・ Babyタイムやお話し会、英語で遊ぼう、リズム遊びのイベントは、お子さんを膝にのせて親子で一緒に楽しむイベントとして好評でした。
 - ・ 手作りの日は短い時間ですが、子どもと離れて物づくりに集中し、利用者さん同士がおしゃべりしながら交流できるお楽しみのイベントとなりました。利用者同士でお子さんを見守りあうこともできました。
 - ・ 広場玄関に通信やのぼりを置き、子育て親子でない地域の方にも存在を知ってもらいました。また、地域の掲示板に通信を貼って存在をアピールしました。
 - ・ 育休の方向けのおしゃべり会は、保育・教育コンシェルジュとオンラインで開催しました。たくさんの親子が利用し、とても好評でした。次年度も開催予定です。
 - ・ 初めての方や子育て初心者の方が安心して来所出来るように、イベントで初心者の会を開催しました。
 - ・ 感染症予防対策として、12時におもちゃ、館内を消毒し、安心安全な空間維持に努めました。
2. **ワーカー・スタッフ・ボランティアのチームワークを大切に、外部研修などを積極的に活用しスキルアップしていきます。**
- ・ 毎月行うスタッフ会議で情報を共有し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、丁寧な対応に努める体制を維持することができました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアの見守りのもと、地域の親子が集い、交流しながらお互い支え合う居場所となれるよう努めました。

- ・ スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切にし、日常の悩みや育児不安を話せるように努めました。
 - ・ 相談内容は個人情報保護し、外部に漏らさないことを厳守しました。
 - ・ 気になる親子や配慮が必要な場合は、スタッフ会議で情報共有を行い、場合によっては地域の保健師や主任児童委員などに相談し、ともに見守りました。
3. **地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。**
- ・ たまプラーザ地域ケアプラザ、山内ひろばなどで出張ひろばを開催する予定でしたが中止となりました。
 - ・ たまプラーザ次世代タウンミーティング、保育子育てネットワーク作りなどに積極的に参加し、地域の情報交換をすることができました。
4. **他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所とも連携して子育て支援の充実に努めます。**
- ・ ネットワーク会議に参加することで、保育園、療育センター、センター保育園の話を聴くことができました。
 - ・ 青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と連携し情報共有しました。
 - ・ まーぶるの登録説明会や横浜子育てサポートシステム説明会など、各事業所の情報などを利用者へ伝えました。
5. **広場での情報提供、毎月の通信の発行、ブログなどで広場が身近にあり、気軽に来てもらえるよう情報を発信していきます。**
- ・ 区内の育児教室、栄養相談、歯科相談などの福祉保健センターからのお知らせを見やすい所に掲示しました。
 - ・ 保健師が開催している育児教室や地域の子育て支援者が行っているひろばで、広場の活動紹介やイベントの案内をしました。
また、保健師、主任児童委員との情報交換もできました。（山内、たまプラーザ、あざみ野）
 - ・ 自治会の掲示板に毎月通信を掲示してもらっており、子育て世代以外の方々にも広場の事を知ってもらうことができました。
 - ・ ブログや通信（毎月発行）で広場の様子やイベント報告、今後の予定を広報しました。
また、公式LINE を開設し、より身近な存在となるよう努めました。
 - ・ たまプラーザ地域の保育園情報などわかりやすくファイルし、利用者に知らせることができました。一時保育の保育園情報も載せました。

③ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

《ラフル》

1. **広く区民にラフル7つの機能を知らせ、活用につなげます**
- ・ コロナ禍において対面での周知活動は制限せざるを得ない状況でした。そんな中でもより多くの人に情報を届けるために、ラフルニュース、ラフルのホームページに加えて SNS（Instagram、Facebook）にページを開設しました。

- 区の広報紙、HiRoTaRianKids の紙面、itscom ラジオ出演への毎月の広報に加えて、ひろば休止期間中に、タウンニュース、サンケイリビングといった地域広報紙でメッセージを掲載しました。
 - 区の広報紙に子育てサポートシステムの特集記事を掲載してもらうことができました。多くの区民の目に留まり、提供会員の入会希望につながりました。
 - 妊娠期に参加できる企画の周知に力を入れました。区主催の母親教室での周知、母子保健コーディネーターが送付する郵便物へのちらし同封を依頼しました。産院や商業施設での母親学級が中止になる中で妊婦の抱く不安を受け止めました。また区やパレット他事業所の協力のもと、妊娠期の家庭に向けて「沐浴の仕方」「着換え、おむつ替え」「ミルクの作り方」動画を作成し、ラフルルのホームページや Instagram にて配信しました。出産後も継続して過ごすことができる場であることの周知も行いました。
 - オンラインで開催されるつながりミーティング、ケアプラザ施設長会、公私合同保育施設長会、子育て支援者定例会でラフルルの事業や役割を紹介しました。
2. 「青葉区みんな子育て」をめざし、あらゆる世代が子育てについて関心が持てるよう取り組みます
- コロナ禍で地域の支援者とネットワークを密にする機運が高まり、地域の子育て資源との関係が深まりました。支援者向け通信の発行や、オンラインで研修をするなど、区内の子育て支援者同士のつながりを築き、サポートしていく取り組みを行いました。
 - 青葉台、市ヶ尾の連合自治会との連携に着手しました。自治会の掲示板、回覧板へ企画を掲載してもらうことができました。
 - 支援者向け研修をオンラインで実施しました。参集では参加が難しかった施設や保育士の参加も得ることができたことは成果でした。
 - 気軽に地域の方が訪れラフルルを知ってもらい親子の過ごす姿を見てもらえる機会とする「地域の方に向けた施設見学日」を設けました。青葉台は月 1 回、サテライトは毎週設定しました。コロナ禍で利用は僅かでしたが、今後も子育て家族を身近に感じてもらい一助となるよう続けて開催していきます。
 - 例年行っている学生ボランティアの受け入れは、見送りました。
3. 利用者が話しかけやすく相談しやすい雰囲気作りを心がけ、信頼される身近な話し相手となるよう日々学びを重ねていきます
- コロナ禍におけるひろば運営、利用者との距離の取り方などの新ガイドラインをスタッフ間で共有し、利用者が安心して過ごし、話ができるひろば作りをしました。
 - ラフルルの相談とは何か、日々の振り返りや研修を通して理解を深めました。利用者が話す言葉をじっくり聴く、利用者の様子を観察し状況に応じて声をかける、答えを出すのではなく利用者の思いを整理する等を心がけました。配慮が必要と思われる利用者には複数のスタッフで対応しました。
 - ひろば休止期間中から来所相談だけでなく、電話相談もできることをホームページ、ブログなどで繰り返し発信しました。相談へのハードルを下げるために、メールによる相談予約システムを取り入れました。ラフルルニュースでも相談に関する記事を取り扱いました。

4. 利用者の声を受け止め、利用者とともにラフルを作って行きます

- ・ 初めてホームページ上で利用対象者アンケートを実施し、ラフルを利用していない養育者の声も聞き取りました。
- ・ コロナ禍の中、子育てに戸惑う親一人ひとりに親身に寄り添い、不安の中でどのような悩みがあるのか把握し、ひろば運営に生かしました。
- ・ 多くの妊娠期の支援が中止となり、妊婦とその家族から不安の声が多く聞かれました。出産後の生活をイメージできる企画は、定期開催日だけでは受けきれないほど参加希望がありました。感染対策を徹底し、別日を設定してできるだけ断らずに受け入れました。
- ・ コロナ禍で親子が行ける場が限られる中、青葉区内9か所に出かけてひろばを開催しました。オンラインを使ったおしゃべり会の開催や、講座の動画をホームページ、Instagramへの掲載など、両拠点に足を運ばなくてもラフルを利用できるように取り組みました。